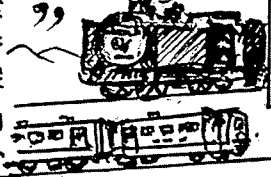


発行
古前町郷土史
研究会
古前町郷土資
料館
平成25年11月

あれから二十五年、 住民の足が消えた日



昭和六十二年三月三十日、
鉄道羽幌線がついに廃止と
なった。

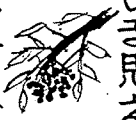
蒸気機関車からディーゼル車に
変わり、住民の足とこころ、また生
活や産業、経済に至るまで、長
い間その恩恵を与えてきた。
だが国鉄は、赤字路線廃止と
いう大ナタを振り降ろした。

住民は大きな衝撃を受け将来を
案じた。過疎と車時代による利
用者減が大きな原因といえは止む
を得ないところでも、こころを悲しく
淋しい思いをした時であった。
あれから二十五年も経つが、当時
の列車内の様子などがまざまざと
思い出される。この車輪もいよいよ

「今は懐かしい地名」

昭和三十年(一九四五年)町内の
集落名が次のように呼ばれて
いたときがあった。いま思えば
本当に懐かしい。

海岸地区



- ・マツヤナイ(采浜)・ポロナイ(三豊)
- ・メドメ(三豊の南端)・オシロン
- ・(豊浦)・オコシナイ(興津)
- ・ウエンビラ(下平)・木町(港)
- ・上町(宮前の市街)・新坂(港の南浜)

農村地区



- ・十三部落(旭)・オシロ(原野)・昭
- 和(田線沢)・旭(二部)・三線春
- 川(五線)・長島(八線沢)・長島
- の一部)・丸線(丸重)
- ・三毛別(三溪)・六線沢(三溪の奥)
- ・本線(三毛別)・岩見(東川)

通勤、通学、旅行者(行商人
多勢の若い人など)車内は賑
やかに活気が漂っていた。
思い出されて今は懐かしい。
余談として、廃止前沿線の各
自治体が国鉄本社に廃止反
体の陳情に出向いたところ
「あなた方はここまで何に乗
て来ましたが、どこ聞かれ
ば、車に乗りました」と答え
る。国鉄本社の幹部の方は
どこでも不可解な顔をした
とか。

郷土史研究会に 入会してください。

私たちのふるさと古前
町の歴史と文化の探究に
関心をお持ちの方はぜひ
入会してください。
楽しく学ぼうとは、きつと
貴方の人生にプラスに
なりますよ。
入会申し込みは古前町
公民館へ(65・4076)

郷土資料館から

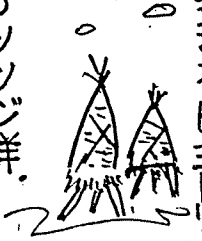
- ・入館者は5134人
- ・9月4千人目の入館者に管理
員の宮本マサキさんが写真を見
たあと陶器のナセツライヌの家
の形をした香炊きをプレゼント
した。
- ・5月初めの中年の男性が直立不
動でトイレを水洗にしてくだ
さいと言っていた。
- ・平成23年の1回目の時は顕事件
のビデオを見られなかったが、
2回目は母親を連れてゆつくり
見て行った。
- ・旭川から来たおじさん夫婦が
三毛別の写真を見て「これは神靈

あなたは知っていますか？

古前町内には絶景や見所がいっぱいあ
りますよ。あなたは知っていますか。
主だった所をあげてみました。

- ・上平共同利用模範牧場の頂上から風車
群と日本海の眺望
- ・夫婦恋の鐘から西島の眺め(上平)
- ・古前のオートキャンプ場の夕陽が丘から
両島と利尻富士の大パノラマ
- ・五月末頃、両島のまんなかに落ちる夕陽
(豊浦・港)
- ・昭和の高台から銀色に映えるスズギが原
と日本海の眺め。
- ・力登の崖上から見るオロロンライン道
路と海
- ・古丹別の八十八公園と展望台からの眺
め

- ・緑が丘公園から九重の田園風景
- ・奥小川の黄金色に染まる「ヨドリ
越えつ」
- ・三溪の軍艦岩
- ・霧立の千畳岩と春のツツジ群
- ・霧立山と霧立峠



写真だ、これは安全燈だと言った
のできちんと説明してくれな
い。最後に「町長に渡してくれ
と5千円置いて行った。
☆入館者の一般的な声として資料館
は展示物の内容は濃く、展示方
法も良いという評価をいただいた。
——あしがき——
町民の皆様には、年2回発行の
「かわら版」を興味深くご覧いただ
き大変ありがとうございます。
これから厳しい冬をむかえますが
どうぞ健康には充分お気を付け
てお過ごしください。
来る新しい年は皆様にとって良い
年でありますように。——